

令和7年度第5回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和7年7月17日（木） 午前9時15分～午後1時5分
2. 開催会場 コスモスパレット パレットⅠ 会議室2・講座室3
3. 出席者 戸川和成委員長、木名瀬昭一委員、小野ひとみ委員、上田一生委員、宮本楓美子委員、山川信一委員、奥田信康委員、市川弘委員、田口由紀絵委員、棚橋明委員
4. 事務局 市民活動推進課 小作課長、浅山課長補佐、金子係長、諫見主任主事
5. その他参加者 市民活動支援センター2名
6. 発表者 4団体
(提案8、9のみ同席：市関連部署環境保全課・増田係長、及川、市民活動推進課・千葉井係長)
7. 傍聴者 議題（1）印西市情報公開条例第7条第5号の規程により、非公開
議題（2）0名、公開
8. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題
 - （1）企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）／スケジュール及び評価の確認について
 - （2）企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）
 - 3 閉会

9. 会議要旨

2 議題

（1）企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）／スケジュール及び評価の確認について
《事務局説明》

・次第、資料2、10、に基づき説明。

《委員質問・検討》

・公開審査会のスケジュール及び審査方法を共有。

・付帯意見の集約方法を確認。委員会を3グループに分け、4提案を分担して模造紙に集約し、グループリーダー委員が講評すること、また全体講評を委員長が行うこととした。

・各提案における質問事項の調整を行った。

（２）企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）

自由提案型２件、指定テーマ型２件の審査を実施。

指定テーマ型のプレゼンの前には担当課より、指定テーマの内容を説明した。

【アイデア審査】

①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

②プレゼンテーション

【提案１】児童館での親子で楽しみながら出来る体力気力回復のための産後ケアバランスボール教室

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問１）産後うつや育児放棄を解決する手法として、バランスボールが適切なのか。他の方法も考えられるのではないかと。

（提案者回答）妊娠中や産後は肉体的にも精神的にも不安定になりがちで、解決策として特に体力づくりが重要だと考える。病院のリハビリの際にも使われる医療用バランスボールは、丈夫で安全性が高く、座るだけでも有酸素運動ができる。また関節に負担が少なく、トータル的なバランスで優れていると考える。

（質問２）提案書を見ると、３箇所の児童館で冊子やリーフレットを窓口に設置するとあるが、さらに周知するために、子育て支援センター等への設置予定はあるか。

（提案者回答）連携していただけるなら、設置を考えている。

（質問３）産後うつや育児放棄が改善されたという効果を、どのように図っているか。

（提案者回答）私たちが所属している「体力メンテナンス協会」のほうでデータをとっている。

（質問４）団体の普段の活動と、協働事業との違いはどこか。

（提案者回答）同様の産後ケア教室は、市内３箇所の保育園の子育て支援ルームにて実施している。内容としては同様だが、普段の活動と協働事業では周知力に差がある。また気軽に行けて安心感のある児童館で事業を実施することは、大きなメリットだと考える。

（質問５）事業の対象者の範囲と、１回あたりの参加人数の目標を教えてください。

（提案者回答）産後２ヶ月～未就学児までの子どもと母である。参加人数については、約１０組で考えている。

（質問６）提案書には事業実施回数が年６回とあるが、概算予算書には３３回とある。回数について教えてください。

（提案者回答）児童館と子育て支援センターが６箇所あり、隔月で実施予定である。

（質問７）年６回では足りず、参加者自身でも産後ケアを実施することになると思うが、マニュアルや具体的なサポートはあるか。

（提案者回答）講座の際に、セルフケアのテキストをお渡ししている。

【提案2】カフェ型拠点を活用した包括型介護者支援事業

提案者の発表

提案者はパワーポイント及び模造紙を使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問1）提案書内の、介護者が抱える「隠れた負担」「行政が直接介入しにくい領域」について、具体的に教えてください。また介護者からとったアンケートについて教えてください。

（提案者回答）家庭の悩みや介護に関する相談事である。これらは行政に相談するには、心理的ハードルが高い。自分達自身で解決できないことを恥ずかしいと思う人もおり、そういった方々の負担を軽減したいと考えている。アンケートは、現在実施しているカフェ事業の金額や内容について聞いている。また別で介護者同士の相談会も行っており、介護に関する困りごとについては把握できている。

（質問2）介護保険、食品衛生法などの、法律との整合性はどうか。事業の拠点はどこか。また食料品費の全額を印西市が負担することについても伺いたい。

（提案者回答）既存の事業とのすみわけも考えて、あくまでカフェとして気軽に情報交換ができる場所を想定している。事業の拠点は内野にあるアマポーラを想定しており、食料品費については参加費や寄付金を充てることも考えている。

（質問3）先ほどの質問にも関連するが、概算予算書を見ると、委託料のほとんどが食料品費として計上されている。食事の提供の意義は何か。

（提案者回答）悩みを抱えた市民と打ち解けるには、回数を重ねる必要があると考えているが、多すぎても人が集まらないと思う。食料品費や開催回数については、最終審査に進めるようであれば、検討したいと考えている。我々は将来的に見守り事業も想定しており、食事やマッサージをすることで、ゆっくりと時間を過ごすことにつながり、必要だと考えている。

（質問4）食事を提供する相手は、介護をする人で良いか。また概算予算書に、無償分の記載がないが、提案者が負担する無償労働力とか提案者が負担する無償機材等はゼロという意味か。つまり事業費の全額を市に負担を求めるという意味か。

（提案者回答）介護者と要介護者両方である。また予算の書き方に不備があり申し訳ない。事業運営に当たっての無償労働力の書き方については、精査していきたいと考える。

（質問5）実際に困りごとが共有されて、解決したというエピソードを教えてください。またフェイスシートを添付された意図について伺いたい。

（提案者回答）介護サービスの利用の仕方が分からないという方や、包括支援センターを知らない方もいる。またケアマネさんと合わず、行政に言いづらいという方もいた。そういった場合に、知り合いの専門家と繋げたこともある。フェイスシートは何かあった時のために利用しており、添付させて頂いた。

【提案 8】里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業

環境保全課より、指定テーマの内容説明

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問 1）なぜこの 3 団体と共同提案するに至ったのか、経緯を教えてください。また各団体の事業と協働事業との違いはどこか。

（提案者回答）この協働事業を実施するうえで、対象地が市有地なのか民地なのかという点が重要である。市有地の方が話が進めやすく、この 3 団体は主に市有地で活動しているというのが一つの理由である。違いについては、各団体のイベントは団体の目的に沿ったイベントであるが、協働事業は、印西市全体のために、グリーンインフラを市民の方に周知したり、団体どうして課題を語ったり、連携が必要なイベントを行っている。

（質問 2）この事業で具体的な成果として何が出せるのか。

（提案者回答）昨年度の審査の際も同様の質問を受けており、具体的な成果を示しづらい事業だと認識している。ただ目標は明確であり、それについての報告書はしっかりと作りたい。昨年度に引き続き自然共生サイト登録を、専門家とともに支援するということはできる。

（質問 3）里山の保全活動にかかる地域企業連携促進は、具体的にあるか。また、考えられているプラットフォームの設置は、どのようなイメージか。例えば、「事務所を設けるとか」「市長の諮問機関になるとか」教えてください。

（提案者回答）事業者との連携は難しいが、連携が可能な企業と団体を繋げる役割をこの協議会が担っている。既に動いているものもある。プラットフォームの終着点としては、答えになっていないかもしれないが、そういった活動的な団体の技術的支援をし、場所を整えられるプラットフォームでありたいと考えている。グリーンインフラをこの場所で進めたら効果があるというマップは、HP で公表したいと思っている。最終審査まで進むことができれば、もう少し詳しく説明できるようにしておく。

（質問 4）団体名の SODO の由来は？

（提案者回答）土木工学の河川の用語である粗度係数が由来。粗度係数は簡単に言えば、川がどのくらいツルツルしているかザラザラしているか表すもの。粗度が大きいと川はゆっくり流れる。人間関係もツルツルよりザラザラなほうがいいと思い、名付けた。

【提案 9】#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～

市民活動推進課より、指定テーマの内容説明

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問１）協働の機会提案書の予算の添付資料の人件費の部分。時給 2,200 円と 1,200 円で差をつけている理由は？

（提案者回答）時給 1,200 円の方は、イオンでのイベントの際に有償ボランティアとして入る方の時給。時給 2,200 円の方は、団体のメンバーの時給であり、講座のプログラムから全て考えているためこの値段となっている。

（質問２）予定事業の集客目標とその達成方策案を説明してください。こっトンカフェの開催回数についても教えてください。

（提案者回答）市の広報や X、スクリレ、公共施設でのポスター掲示の効果で、多くの方に参加していただいている。その中でも男性が参加しづらい事業だと思うので、男性の集客を目標にしている。今回企業の研修でも使われている安全性の高い、生理痛 VR 体験デバイス「ピリオノイド」を導入予定。実体験していただくことが一番だと思う。また私たちよりも下の世代の方が、男女に対する理解が必要になってきていると思う。各学校に周知し、生徒会の役員の男の子に参加していただくといったアイデアも出ている。一人に伝わり、そこから多くの人に伝わってほしい。今年、来年と事業を実施することで、違った層にも声がけできると考える。こっトンカフェの開催回数については、今年度は年 10 回開催予定だが、市の予算が削減された関係もあり、来年度は年 5 回（隔月第 3 火曜日の午後）に開催予定である。

（質問３）このような事業は、継続性が重要。今までの成功事例、失敗事例などをお話いただき、今後の課題について教えてください。

（提案者回答）性教育学会の先生に来ていただいたことがあったが、周知が行き届いておらず、参加者が少なかった。その反省を生かし、今年度は募集を早めにかけた。市民活動団体という予算が限られた中で、周知活動をする難しさを感じている。また事業を継続するにあたって、人手不足の課題もある。

（質問４）協働の機会提案書の予算の添付資料の報償費の部分。外部講師②440,000 円が、「ピリオノイド」の代金か。

（提案者回答）そうである。株式会社リンケージから専門のスタッフが来ていただく。健康状態の確認のために人員が必要なことや、電極が使い捨てなこと、交通費も含まれるため、この金額となっている。

（質問５）そもそもリプロダクティブヘルス／ライツがどのような考え方で、市民活動推進委員会として男女の委員が一緒になって、ともにこの協働事業の是非について議論するのが大切なのかという点について、団体のこれまでの活動で培われた知見をもとに教えてください。また市内イベントについて、男性や若い人の参加者が少ないと思うがどうやって巻き込んでいくか。将来的に男性の性の問題にも取り組む等のアイデアがあれば、教えてください。

（提案者回答）性や命の問題は男性・女性両方に関わる問題である。自分の成長や女性にしか起こらない生理への理解をすることで、相手の気持ちを尊重したり、人権を大切にしたりすることに繋がる。お互いに起きていることを理解する所から始めるために、小中学校での性教育講座を行って

いる。

③審査結果発表・講評

【審査結果】

提案 番号	事業名	○	△	結果 (可/否)
1	児童館での親子で楽しみながら出来る体力気力回復のための産後ケアバランスボール教室	8	2	可
2	カフェ型拠点を活用した包括型介護者支援事業	6	4	可
8	里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業	8	2	可
9	#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～	10	0	可

【講評】

提案毎に、担当の市民活動推進委員会委員より講評を行う。

【提案1】児童館での親子で楽しみながら出来る体力気力回復のための産後ケアバランスボール教室

- ・既に実施されている事業で充足しているのか等、協働の意義について、行政と十分協議してください。
- ・データ等を合わせて示すと、より説得性や信頼性が増すと思います。
- ・たくさんの人に来ていただくために、周知方法や開催場所について検討してください。

【提案2】カフェ型拠点を活用した包括型介護者支援事業

- ・協働の意義や事業の具体性が見えず、食事の必要性も分かりづらいので、更なる検討が必要だと思います。
- ・「カフェ」という手法をとる根拠が、もう少し欲しいです。行政とよく相談してください。
- ・食料品費への偏りや、無償分の計上が無いなど、予算書についてよく検討してください。

【提案8】里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業

- ・グリーンインフラを保全するための、プラットフォームの構築に期待します。
- ・事業内容の抽象度が高く、どんなことができるのか分かりにくいと思います。明確な目標設定について検討してください。
- ・行政、市民活動団体、企業、研究者が連携した意味のある事業だと評価します。

【提案9】#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～

- ・小学校で性教育の講座を実施し、実際の子供の声を取り入れるなど、市民ニーズを的確にとらえ

た事業であると評価します。

- ・継続的な働きかけが重要であり、女性に限らず多様な性の課題に対する取り組みに期待します。

【総評】

委員長より総評がある。

- ・アイデア審査の趣旨は課題把握の的確性や協働の効果について、どのように考えるか。ここからは更に具体的に詰めてほしい。何が実行できて、何が実行できないか。それぞれの提案ごとのコメントを見ると、行政と綿密な打ち合わせが必要だと思う。団体自身で実行できないものに関しては、他の連携相手を探すことも必要だと思う。

【事務連絡】

- ・提案者に、本日の審査結果通知の予定を説明。また、アイデア審査を通過した提案者に、最終審査に臨むにあたっての三者協議や提出書類等の通知を説明した。
- ・最終審査を10月1日に実施することを説明。

以上

令和7年7月17日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は事実と相違ないので、これを承認する。

令和7年8月25日

会議録署名委員 山川 信一